

第 93 回麻布獣医学会 一般学術演題 16

東京家禽講習所に関する資料および 麻布大学の名称に関する考察

○塩谷 順彦¹, 鈴木 立雄²¹株式会社ケイ・エス・オー, ²麻布大学名誉教授

麻布大学の起源は、明治 23 年に與倉東隆が東京市麻布区に開設した東京獣医講習所である。その後、麻布獣医学校、麻布獣医畜産学校、麻布獣医専門学校、麻布獣医畜産専門学校、麻布獣医科大学、麻布大学へと発展を続けている。この過程で麻布蹄鉄専修学校、麻布公衆衛生短期大学（現生命・環境科学部）などの併設校が存在したが、東京家禽講習所の存在は、ほとんど知られていない。本講演では、東京家禽講習所に関する資料について簡潔に紹介し、さらに麻布大学は、なぜ麻布を冠するようになったのか考察する。

明治 44 年 11 月 22 日、與倉東隆より東京家禽講習所設立願が東京府知事に提出され、同年 12 月 13 日に認可された。そして、東京家禽講習所は、文部大臣に報告された。「家禽ニ関スル講習」を目的とし、「東京市麻布區新堀町十一番地私立麻布獣醫畜産學校内」に設置された。私立東京家禽講習所規則の第一章第一条に「本講習所ハ教育勅語ノ趣旨ヲ奉シ家禽ニ関スル須要ナル教育ヲ施スヲ以テ目的トス」と当時の時代背景に沿った目的が記載され、第三條には「修業年限ハ六ヶ月トス」と修業年限が記載されている。明治 45 年 1 月 8 日には規則修正願が提出され、規則第三條が変更となり、規則第十九條に第三項（冬季休業）が追加された。修業年限は変わらないが、第三條は、学期の始まりが「一月十一日」、「七月一日」から「四月一日」、「十月一日」に変更された。そして、明治 45 年 2 月の広告には、東京家禽講習所として麻布獣医畜産学校と並んで生徒募集の広告が掲載されている。東京家禽講習所は、與倉東隆の目指した獣医学と畜産学の一体教育の一環として設置されたもの

と考えられる。

一方、麻布大学が麻布を冠するようになった経緯であるが、明治 22 年、芝区三田一丁目の三田種育場に分設されていた東京農林学校獣医学部が駒場に移転することになり、獣医学部長であった與倉東隆は、家畜診療依頼者と学生実習に不便であると考え反対した。しかし、その意見が受け入れられなかったため、三田種育場の近郊で與倉東隆に獣医実務教育の向上を託した松方正義の邸宅の近く（三の橋際）に私財を投じて同年 6 月 16 日に東京家畜病院を開院した。経時的に前後するが東京獣医講習所の土地については松方正義が斡旋したのではないかと足達卓治氏は考察している。東京家畜病院の設置場所については古川を挟んで三田種育場の近郊であったことが決め手になったと考えられる。その 1 年後の明治 23 年に開設されたのが東京獣医講習所である。この講習所は明治 27 年に麻布獣医学校と改められた。明治 27 年に初めて麻布を冠する麻布獣医学校と称することになったが、それまでは東京家畜病院、東京獣医講習所と東京を冠していたため與倉東隆は東京を冠する獣医学校を称しなかったのではないかと推察できる。しかし、明治 25 年に開設された東京獣医学校（明治 35 年閉校）がすでに存在したため、地名である麻布を獣医学校の名称に冠したのではないかと考えられる。そして明治 44 年、家禽講習所を開設するにあたり名称に冠したのは麻布ではなく東京であった。東京家禽講習所のその後については不明であるが、明治 27 年に麻布を冠して以来、麻布大学は麻布を冠した大学として発展を続けている。